



欧州各地でレースが続々、 春のクラシックシーズン開幕！

3月を迎え、育成チーム「EF エデュケーション・NIPPO」は、2チーム体制でギリシアとクロアチア遠征に挑み、どちらもワンディレースとステージレースを含む3レースに出場しました。クロアチア遠征では、欧州エリートカテゴリーでの経験が少ない橋川丈、仮屋和駿、山田拓海が参加。成績は残りませんでした。それぞれに“逃げに乗る”など目標に向かって、試行錯誤を繰り返しながらステップアップを遂げ、学び多き遠征になりました。

「EF エデュケーション・イージーポスト」が主戦場とする欧州のトップレースシーンは、春のクラシックシーズン真っ只中。1世紀以上続く伝統の大会が次々と開催され、3月末からはベルギーやフランス北部で荒れた石畳や急坂で熱戦を繰り広げる“北のクラシック”が開幕し、レースシーズンはより一層盛り上がります。



19ヶ国、30選手が所属するグローバルな世界トップカテゴリーのUCI ワールドチーム。



イタリア伝統の一戦「ミラノ～サンレモ」が3月19日に第114回目の開催を迎え、300 km近い美しいレースの末、ニールソン・パウレス（アメリカ）が7位。



フランスでは3月上旬に今季最初のビッグレース「パリ～ニース」が開催され、第2ステージでマグナス・コルト（デンマーク）がマイヨジョーヌを獲得。



ギリシア遠征には門田祐輔、織田聖、留目夕陽ら6選手が参加。第一戦目の2日間のステージレースではフェリックス・スティリ（スイス）が個人総合3位で表彰台に立ちました。



クロアチア遠征は頻発する落車や真冬のような悪天候もあり、過酷な条件下でのレースとなりましたが、選手それぞれに自らの課題克服や目標に向けて最善を尽くし、収穫の多い遠征になりました。